

すなやま・けんいち

株式会社ゆう建築設計代表取締役。建築設計と企画を一体的に行う「建築企画」のバイオニア。関西を中心に80を超える医療・介護施設の設計を手がけ、近年では医療法人等を対象とした高齢者住宅事業のセミナーを各地で展開している。1972年、SANT-LUC DE TOURNAI 建築学校(ベルギー)留学。75年、京都大学工学部建築系学科修士課程修了。81年、ゆう建築設計設立。著書に、「医療・介護・建築関係者のための高齢者の住まい事業企画の手引き」(学芸出版社)等
http://www.eusekai.co.jp/
E-mail:sunayama@eusekai.co.jp

高齢者住宅の事業性を高める「設計VE」

モノ



常識は生活様式に沿っている？ 広い廊下と手すりのVE

砂山憲一 株式会社ゆう建築設計代表取締役

図1 手すり対応。廊下の幅がバリアー

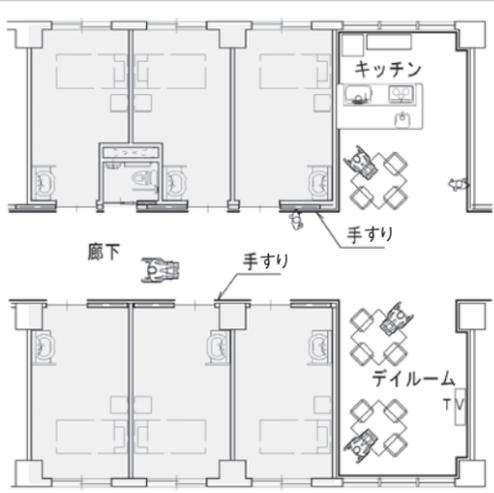
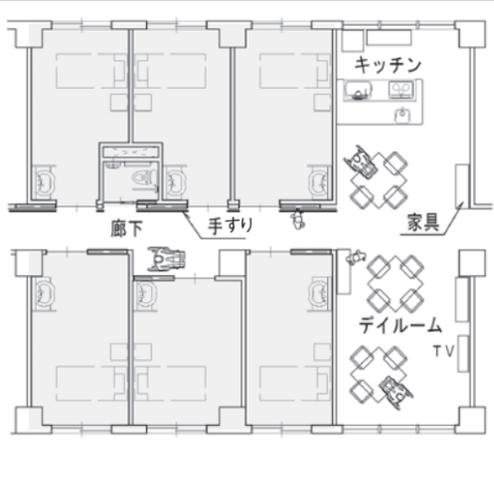


図2 手すり、家具、窓枠など住宅内の移動方法を取り入れる



目的とする機能を得るために、複数の方法を選び、それぞれのコストを産出し、費用と効果からより優れた方法を選択することが建築の設計VE(ヴァリユーエンジニアリング)です。建築を専門としない方には難しいようですが、今回は手すりを例に説明します。

幅の広い廊下はバリアー

- ユニット型特養を例に、共同生活室で、食事や団欒の後、個室へ帰ることをイメージしてください。
- ご自分で歩ける方は普通に歩いて帰れば良いのですが、体が不自由で、要介護度が高い方はどうするのでしょうか。いくつかのパターンが浮かびます。
- 車いすを使われている方は、車いすで移動します。
- 歩行器を使われている方は歩行器で移動します。
- 杖を使われている方は、杖で移動し、時には手すりも利用します。
- 少し移動に不自由な方は手すりを使いながら移動します。



幅の広い廊下と両側の壁に設けられた手すり。本当に有効か

廊下の壁に沿って手すりをつけると、一般に採用されているこの方法は大きな問題を抱えています(写真)。

手すりを設計VEで再検討

こうした状況を設計VEの発想で見直してみます。ここで目的とする機能は次のようになります。「体の状況にかかわらず、共同生活室の食卓テーブルからご自分の個室へ戻ることができる」

この目的を達成するために、これまで先に述べた幅の広い廊下と両側手すりという方法がとられていました。このコストは幅広の廊下の建設費と手すり代から計算

- 廊下の幅は住宅の廊下のように1m程度にし、片側に手すりを設ける。車いすがすれ違うためのスペースをいくつか設ける。共同生活室では手すりではなく、家具などを置いて手すり代わりにする(図2)。(ただしこの方法は特養などでは法規上不可能です。)
- 建物では何もせず、介護スタッフが常に付き添って移動する。

手すり代と介助費用の比較

ここでコストが問題となります。なぜ③の介護スタッフが付き添う方法は採用されないのでしょうか。それは、明らかにコストが高つくからです。①、②の方法にしても、

実はコストを比較する時には、見守りや介助の手間を加えてコスト比較を行わなければいけません。そのような検討を行うことによって、これまでの常識にのっとって作られてきた建物が、より入居者の生活 방식に沿った内容になる可能性が出てきます。

一般的にユニットの水平手すりは50万円から70万円ほどの費用がかかっています。手すりをやめ、この費用で②のような方法を採用することも可能です。

居室内の手すりは後でつける

居室内手すりは、使用者にあつた手すりをつけなければいけません。廊下などは多くの方が使うので、個人にあつた手すりは元来不可能ですが、特養にしろ高齢者住宅にしろ、居室内の手すりはそこにお住まいの方に合わせるべきで、トイレや浴室の手すりを含めて先につけるのは間違いです。手すりを後づけ可能にするには、壁の下地に前もってベニヤ板などをつけておけば大丈夫です。1室当たりの費用はほんの数万円です。

ユニットバスも手すりを後づけできるタイプがあります。金額は変わりませんが、後づけ手すりが可能な製品を選ぶべきです。

されます。ところが、体の不自由な方にとっては廊下を横切ること自体が転倒などの問題を引き起こす可能性を秘め、コストを超えた問題点を抱えています。この方式をとるにはこのバリアーをなくす方法とそのコストを負担することが前提となります。

水平手すりをつけない高齢者の住まい

最近一部の福祉施設では、この廊下を這い回る水平手すりは不要と考えるところも出てきています。廊下に手すりをつけるよりも、家具などを置いてつかまって歩けるようにするほうが良いという考え方は、確かにご自宅では手すりがないでも、家具や壁に寄り掛かって歩いていることも普通です。

移動介助の3つの方法

- 体が不自由な方が廊下を移動する方法が2つ出てきました。実はもう1つあります。それは建築では何も対応せず、すべて介護スタッフに頼ることです。
- ①これまでのように、幅の広い廊下の両側の壁に水平手すりを連続して設ける(図1)。